ミカン生育情報

千　　葉　　県
平成２１年 10 月号

平成 21 年９月の気象

平均気温は、第６半旬は平年より 0.9℃高く、他の半旬は平年より 0.1 ～2.6℃低かった。月平均気温は 21.5℃で平年の 23.0℃より 1.5℃低かった。

降水量は第３半旬で平年より多く、他の半旬は平年より少なかった。月合計は 87㎜で平年より 160㎜ 少なく、平年の 35%であった。

日照時間は、第１～３半旬は平年以下であり、月合計日照時間は 161 時間で平年より 15 時間（10%）多かった。

表１　平成 21 年９月の気象（暖地園芸研究所）

半旬	平均気温 ℃		降水量 mm		日照時間 hr	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	22.5	25.1	1	27	24	31
2	22.4	24.5	0	44	26	28
3	21.1	23.7	39	29	22	25
4	20.1	22.7	4	39	32	22
5	21.5	21.6	0	47	30	20
6	21.3	20.4	44	61	27	20
平均/合計	21.5	23.0	87	247	161	146

生理障害、病害虫の発生

今年は現在までのところ目立った病害虫の被害はない。
盛夏を過ぎた頃からミカンハダニが増加するので注意する。果樹カメムシ類の発生量は平年並であるが、地域により餌植物であるスギやヒノキの球果が豊作であり、成虫の発生量に注意する。

果実および樹の生育

果実の生育を各調査地の平均値で見ると、早生温州は横径・縦径の平年比がそれぞれ 98、101%、普通温州はそれぞれ 104、102%と平年並で、川野夏柑は、それぞれ 104、107%と平年を上回っている。

本年度の温州みかんの結実量は概ね多く、生育も順調であることから豊作が見込まれる。

表２　果実の生育（平成 21 年９月 30 日）

品種	調査地	横径（cm）		縦径（cm）	
興津早生	三　芳	5.5	(92)	4.7	(98)
	千　倉	6.1	(103)	4.9	(103)
	暖地園研	5.9	(98)	5.0	(103)
大津４号	三　芳	6.3	(103)	4.7	(99)
	千　倉	6.6	(102)	4.9	(104)
	暖地園研	6.8	(108)	4.9	(105)
青島温州	三　芳	6.3	(102)	4.7	(97)
	千　倉	6.1	(98)	4.6	(98)
	暖地園研	6.7	(109)	5.0	(107)
川野夏柑	暖地園研	8.4	(106)	7.1	(107)
早生温州（平均値）＊		5.8	(98)	4.9	(101)
普通温州（平均値）		6.5	(104)	4.8	(102)

（　）の数字は平年値（平成６～20 年の平均）を 100 とした比数

＊ 早生温州：興津早生３調査地の平均

普通温州：大津４号、青島温州３調査地の平均

９～10 月の栽培管理

浮皮症の軽減対策　収穫期に過湿条件であると浮皮症が発生しやすいので、防風垣を刈り込んで通風を良くし、排水対策を講じて園地の乾燥に努める。

樹上選果　本年は全国的に表年であるため、選果は念入りに行い良品出荷に努める。11 月になっても、気温が高いと果実は肥大するので、収穫直前まで園地を見回り、商品性の劣る果実を摘果する。収穫、選果の労力を軽減するためにも有効となる。

早生温州の収穫　着色の良好な果実から順次収穫していく。収穫時のハサミ傷や落果は収穫果実の腐敗の大きな要因となるため、果実はていねいに扱う。収穫直後の果実は果皮の水分が多いので出荷予措を行う。コンテナに果実を７分目ほど入れ、風通しのいい日陰に２～３日置くと、果皮がしなやかになり、選果や出荷時の傷果の発生予防になる。

秋肥　早生温州では 11 月上旬、普通温州では 11 月中旬に、ともに窒素、リン酸、カリをそれぞれ 10a 当たり成分量で６、４、６kg 追肥する。秋肥は適期に施用することが重要で、早すぎると着色の遅れや浮皮果が生じ、逆に遅すぎると低温のため吸収が悪くなる。乾燥の影響で樹勢が落ちた樹には収穫後直ちに液肥を散布する。

病害虫の防除　10 月中旬～11 月上旬には、貯蔵病害である青かび病、緑かび病の防除を行う。ミカンハダニやカメムシ類は発生に応じて防除を行うが、収穫を間近に控えた品種では、農薬の使用基準にある収穫前日数に注意する。

《 生育情報の問合せ先 》

千葉県農林総合研究センター　暖地園芸研究所　果樹研究室　電話　0470-22-2961

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。　http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/